

## 平成30年度第11回霞ヶ浦自然観察会実施結果報告

「春を探そう！ 花・虫・魚いくつの春を探せるかな？」を実施しました。

日 時：平成31年3月16日（土曜日） 午前10時から午後3時まで

場 所：霞ヶ浦環境科学センターの庭・センター下の湖岸水路

参加者：20名

結 果： 今回の観察会は自分で春を探すこと、ルーペを使い植物の別な姿を見ること、似ている植物を見分けることを行いました。

研修室で「春の七草」の話や、本日使用するルーペの使い方を説明して、外に出ました。早速、ヨモギの若い葉があり、ルーペを使い拡大して見て、葉の表面に白い毛がたくさん生えているので葉が白っぽく見えるのを知りました。また池の中を覗くと産まれたばかりの小さなアカガエルのオタマジャクシや、群れになって泳いでいるメダカが見えました。池の中にはヘビみたいなひも状の物が沈んでいました。ヒキガエルの卵です。採取して周りのゼリー状のものの感触を確認しました。

庭を散策し、似ている植物のヒメオドリコソウとホトケノザを見つけ、両者は葉で見分けることができることを知り、参加者は次から両者が混在していても見分けることができるようになりました。日が差してきて、オオイヌノフグリの花が開き始めたので、各自一つ採ってルーペで花の観察を行いました。

次に似ている植物として、ハコベとオランダミミナグサを探し、どこが違うか観察し、ハコベの花びらが何枚あるかの数えてみました。一見10枚に見えますが、ルーペでよく見ると2枚の根元がくっ付いていて、本当は半分の5枚であることがわかりました。セイヨウタンポポも花が開いていたので、花びらの数を数えることにしました。参加者は「え、これを数えるの」と戸惑っていましたが、実は花びらに見えるのは、それぞれが一つ一つの花で、花びらは5枚がくっ付いていること、一つの花の下にある白い毛のようなものが、花の罅(がく)でこの部分がタンポポの種子の羽になること、花の周りにある罅に見えるものは、苞と呼ばれるものであることを知りました。

薄日が差すようになり、午後は蓮田の道脇にある植物を観察しながら、湖岸まで歩きました。途中で春の七草のひとつであるセリがあり、毒のあるドクゼリとの見分け方を知りました。

堤防沿いの水路で、魚捕りを行いました。魚があまりいないように見えたのですが、捕り始めると次から次へと魚が捕れて、たちまち2つのバケツは魚で一杯になりました。大きいものは6cmのギンブナから小さいものは1.5cm位の名前が判別できない魚まで捕れました。他にはタイリクバラタナゴ、ツチフキ、ブルーギル、モツゴ、スジエビが捕れました。

帰りの道で、ナズナに似たグンバイナズナを見つけ、センターに帰り両者の比較を行い、今日の観察会を終了しました。今回の観察会はルーペという道具を使い、植物を別な角度で見ることをしましたが、参加者の皆さんは新たな発見ができて感激していたようです。

次に観察会の様子を紹介します。

(腰塚昭温)



池の観察



オランダミミナグサ



ハコベ



植物の観察



水路での魚捕り



魚の観察